

カゴメ株式会社 健康事業部

2020年10月1日 食育推進評価専門委員会

カゴメ株式会社の食育事業のご紹介

資料2

© 2020 カゴメ「野菜と生活 管理栄養士ラボ®」



2025年 カゴメ株式会社の長期ビジョン

「トマトの会社」から「野菜の会社」に

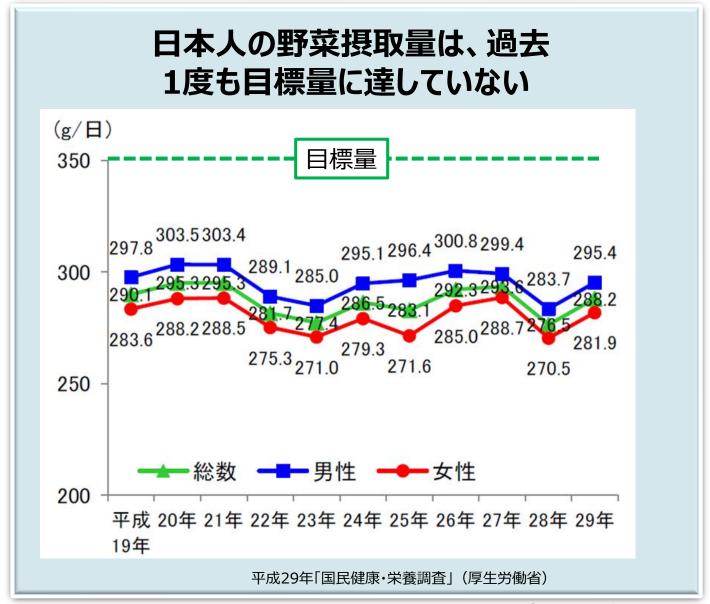


ニッポンの野菜不足をゼロにすることで、

健康寿命の延伸に貢献



日本の野菜摂取の現状とカゴメの取組



既存のフードシステム としての役割だけでは、 現状を変えられない

野菜摂取に対する、 意識、行動を変える 取組が必要



野菜摂取促進運動「野菜をとろうキャンペーン」

 『野菜をとろう あと60g』をスローガンとして、異業種の企業・団体や有識者、 当社株主との協働によって、社会全体で野菜をとろう!という機運を高めていく。



「野菜をとろうキャンペーン」 発表記者会見 2020年1月17日 (金)

異業種の企業・団体と連携 『野菜摂取推進プロジェクト』



持続可能な取り組みとしての健康事業の推進





健康事業の提供

動機付け

- ・セミナー
- ・Eラーニング
- ·啓発資料作成
- ·映像作成

実行支援

- ·体験教室
- ・ベジチェック
- ・アプリ

環境のサポート

・野菜を簡単に摂取できるサービス (カゴメ商品の提供)



動機付けサービス



全国に勤務する管理栄養士による動機付けセミナー

- ✓ 2020年8月までの受講者 延べ1万5千人以上
- √満足度90%以上





オンラインセミナーの提供

グループワークや投票機能を 活用した双方向型セミナー



※画像はイメージです。 今後変更する可能性があります。

€ 1

RA 講師選択 講師を選んでください







E-ラーニングの提供

都合の良い時間、場所で セミナーと同じ内容が学べる



環境サポートサービス

「野菜を手軽に摂取できる環境」を提供



- ✓ 従業員が職場でも、自宅でも野菜を摂取しやすいように、野菜飲料を配送
- √ 費用の一部を企業が負担することで、手軽に 摂取できる
- ✓ 動機付けにもなる動画コンテンツも配信



コロナ環境下でも手間なく実施できる健康増進施策



実行支援サービス① 『ベジチェック®』

カゴメ ベジチェック®





簡単 数十秒

わかりやすい



・皮膚のカロテノイド量から 体内の抗酸化レベルを 120段階で評価

Meinke MC, 2016 Meinke MC, 2017

·過去約1ヶ月の食生活の 野菜摂取量を推定 2020年7月までの測定回数

12万件超



- ✓ 健診データとの関連検証
 →メタボ検査結果との関連示唆
- ✓ 日本人の野菜摂取に関する ビックデータとして活用
- ✓ 他のデバイス、ヘルスケアプラット フォームとのデータ連携

Matsumoto M. 2020



実行支援サービス②『ベジ選手権アプリ』

食生活の自己管理 モバイルアプリで楽しくサポート





- ・一人ではなくチームで参加
- ・最初の食生活が悪い人ほど有利
- ・最後の最後で順位変動有り

✓ 4週間の実施期間中、 平均80%以上の高い参加率



✓ 野菜摂取への影響

ベジチェック®の野菜摂取レベル



平均5.5点/12.0点 平均6.6点/12.0点

n = 56



意識・行動の変化に繋がる総合サービスの提供

意識が変わる、行動も変わる「カゴメ健康サポートプログラム」を提案

④ 新たな施策の提案

① 動機付け

















③ 行動支援、環境サポート





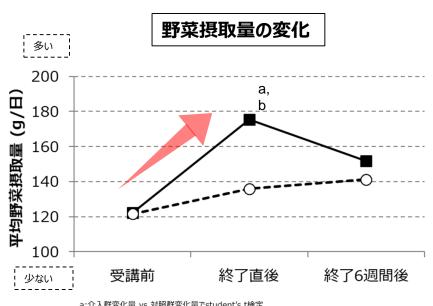
② 自己アセスメント、目標の設定





サービスの質向上に向けたエビデンスの取得

提供するサービスの品質保証、より効果的なサービスへと改善するため、プログラム受講による野菜摂取への影響について、エビデンス取得活動実施



a:介入群変化量 vs 対照群変化量でstudent's t検定 b:郡内で事前vs プログラム直後、プログラム終了6週間後の結果をone-way ANOVA検定後にDunnett検定

野菜摂取の意識・行動の変化

前熟考期を1点、熟考期を2点、決定期を3点、実行期を4点、維持期を5点で得点化介入群変化量 vs 対照群変化量でMann-Whitney U 検定 ** p<0.001, * p<0.01 群内で事前vs プログラム直後、プログラム終了6週間後の結果についてFriedman検定 + p<0.001

カゴメ健康サポートサービスを受講した群 対照群(受講しなかった群)

論文投稿 2020年10月 栄養学雑誌に掲載